

ノーベル賞受賞者の群像

盛田 常夫

ケルティース・イムレの文学賞受賞で、ハンガリー人のノーベル賞受賞者数は13名となった。ハンガリーで初めての文学賞受賞である。これでハンガリーはすべての分野でノーベル賞を受賞したことになる。いわば六冠達成で、いまだ経済学賞の受賞がない日本を一步追い越した。もっとも経済学賞はそれ以外の賞と異なり、科学アカデミーではなく、スウェーデン国立銀行が30年ほど前に創設したもので、他のノーベル賞と性格が異なる。

ハンガリーの13名というのはハンガリーが公表している数字で、実際にハンガリー国籍を有して受賞したのは、今回のケルティースを含めて3名に過ぎない。とすると、10名は水増しということになるのか。人が受賞するのか、民族が受賞するのか、国が受賞するのか。もちろん、個人が受賞するのであるが、その栄誉は個人にとどまらないので、その個人の所属をめぐる判定が問題になる。受賞者を国籍で見ると、それとも民族でみるのかはそう簡単でない。さらに、受賞に結びついた基本的な教育をどこで受けたかも、重要な基準になるはずだ。

たとえば、免疫システムの研究でノーベル医学生理学賞を受賞した利根川氏のケースを考えてみよう。アメリカで研究活動をおこなっている利根川進氏が、仮にアメリカの市民権をもっていたとしたら、アメリカ人としての受賞になるのだろうか。大学教育までは日本で受けているのだから、やはり日本人の受賞として祝うのではないだろうか。他方、利根川氏の受賞がアメリカでの仕事が評価されたものだとすると、日本が受賞したと誇るのとは後ろめたい。このように、科学分野のノーベル賞受賞者のバックグラウンドをどう見るかは、単純でない。

現在のように、国境の垣根を超えて人材の交流が行われている時代に、どこの国、どの民族の出身というのも了見が狭いような気はするが、サッカーのワールドカップと同じで、ノーベル賞は民族の優秀性を誇る一つの基準になっていることは否定しがたい。世界に活躍する人材を輩出してきたハンガリーが、ノーベル賞受賞者の数を誇るのとは責められない。

受賞者の選定の基準

さて、実際にハンガリー出身のノーベル賞受賞者を確定するのは容易でない。受賞者のほとんどがハンガリーを離れた後、他国の国籍を取得して受賞しているからである。ノーベル賞受賞時にハンガリー国籍を有していた科学者は、生理医学賞を受賞したセント-ジョルジィ・アルベルトと化学賞を受賞したヘヴェシ・ジョルジュ、そして今回のケルティースの3人だけである。セント-ジョルジィはハンガリーで研究した成果が対象になったが、ヘヴェシはコペンハーゲンでの研究が対象になっている。ケルティースはまさにユダヤ系ハンガリー人である存在そのものが、文学の対象になっている。

ケルティース受賞前にハンガリー科学・技術連合事務局が編纂した『ハンガリー出身のノーベル賞科学者』やハンガリーの百科事典によれば、ハンガリー出身のノーベル賞科学者は、以下の12名とされている。今回これにケルティースが加わった。

表の12名のうち、ハンガリー国籍を有していたセント-ジョルジィとヘヴェシを除く10名について、どのような根拠でハンガリー人あるいはハンガリー出身者として認定されているか、見てみよう。

まず、大学教育までハンガリーで受けたハンガリー（マジャール）人で、その後、外国でその研究成果が認められた科学者の一群である。ペーケーシ、ヴィグナー、ガーボル、オラー、ハルチャーニの5名がこれに該当する。ノーベル賞受賞時にはすでに外国籍を保有し

ているが、ハンガリーでの教育や研究が基礎となっており、民族的にもハンガリー人であり、ハンガリー出身のハンガリー人として認定して問題はないだろう。

氏 名		受賞年	受賞分野
英語表記	ハンガリー語表記		
Philipp E.A.von Lenard	Lenard Fülöp	1905年	物理学
Robert Barany	Bárány Róbert	1914年	医学生理
Richard A. Zsigmondy	Zsigmondy Richárd	1925年	化学
Albert von Szent-Gyorgyi	Szent-Györgyi Albert	1937年	生理医学
George de Hevesy	Hevesy György	1943年	化学
George von Bekesy	Békesy György	1961年	医学生理
Eugene P. Wigner	Wigner Jenő	1963年	物理学
Dennis Gabor	Gábor Dénes	1971年	物理学
John C. Polanyi	Polányi János	1986年	化学
Elie Wiesel	Wiesel Eliézer	1986年	平和
George A. Olah	Oláh György	1994年	化学
John C. Harsanyi	Harsányi János	1994年	経済学

第二のケースは、パーラーニィ、ジグモンディ、ポラーニィの場合である。3名とも両親はハンガリー人であるが、外国で生まれ、外国で教育を受けている。3名ともハンガリー語を解し、民族的に純粋なハンガリー人と認定できるが、ハンガリーで教育を受けた経験もハンガリーに住んだ経験もなく、ハンガリー人ではあってもハンガリー出身ではない。パーラーニィ家もポラーニィ家も、ハンガリーを代表する家系であり、その純粋な末裔であることだけは確かである。ハンガリー出身ではなく、ハンガリー人の血を百パーセント受け継いだ科学者として認定できよう。

第三のケースは、民族的に純粋にハンガリー人とは言えない、あるいは別の民族出身であるが、ハンガリーの教育（少なくともギムナジウムまでの教育）を受け、ハンガリー語を第二の母語とする科学者である。これに該当するのは、レナードとヴィーセルである。レナードはオーストリア出身の家系であるが、ハンガリー領で生まれ、教育はハンガリーで受けた。ポジョニィ（現ブラチスラバ）のハンガリー王立レアル高校に学び、ドイツで博士号を受けた後、ブダペスト大学の助手になっている。ハンガリー科学アカデミーの正会員で、後にドイツ国籍を取得した後にノーベル賞を受賞した。ヴィーセルはハンガリー領マーラマロシュスイゲット（現ルーマニア）に生まれたハンガリー系ユダヤ人で、高等教育までハンガリーの学校に通い、デブレツェンの高校を卒業した。その後、フランスに移住し作家としての名声を得たのち、アメリカに渡り、アメリカ国籍を取得した。ヴィーセルの場合は、他の受賞者と異なり、少年時代のホロコーストの経験からハンガリー出身という意識は薄い、自身はハンガリー系ユダヤ人を自称している。

以上の基準を適用した場合に、さらにもう一人、1976年にノーベル経済学賞を受賞したシカゴ学派の泰斗ミルトン・フリードマンが対象になる。フリードマンの両親はベレグサーズ（現ウクライナ）出身で、ハンガリー語を母語とする。父はブダペストで数年間の教育を受けた。両親は別々に10代半ばでアメリカに移住し、そこで知り合い結婚し、ミルトンはニューヨークで生まれた。しかし、ハンガリーのノーベル賞受賞者リストの中には、フリードマンを含めていない。

受賞の業績と横顔

レナード（1862-1947年）は、「陰極線の物理学的研究」で物理学賞を受賞した。大学教育はウィーンで、博士号はドイツで取得したが、その後一時期、ブダペスト大学でエトヴォシュの助手にもなっている。彼の研究はポジョニィのレアル高校時代の恩師クラットの教育に触発されたもので、独立した研究者になってからも恩師への敬愛の念を持ちつづけた。ノ

ーベル賞受賞の前年にはハンガリー科学アカデミー誌にクラットとの共同論文を掲載し、恩師の名前を先に記すように依頼している（この願いは実現しなかった）。

パーラーニィ（1876-1936年）は、「内耳前庭器官の生理学的病理学的解明」で生理医学賞を受賞した。ウィーンの医科大学を卒業し、そこで勤務した後、ウプサラ大学の耳科教授としてスウェーデンに移住し、そこで生涯を終えた。パーラーニィ家は国外に移住してもハンガリー語独特の a の長音表記 á を維持していることで知られている。

ジグモンディ（1865-1925年）は、「コロイド溶解の特性の解明とその手法が近代コロイド化学の基礎を創った」業績で、化学賞を受賞した。ハンガリーでの家系は1630年代まで遡ることができる。父はブダペスト、母はマルトンヴァーシャー出身。ウィーンで生まれ、ハンガリー語とドイツ語のバイリンガルだった。ウィーンで学校教育を受けたが、大学教育はゲッティンゲンで、博士号はミュンヘンで取得した。

セント-ジョルジィ（1893-1986年）は、「ビタミンCに関連した生物学的な酸化過程の解明」の業績で、生理医学賞を受賞した。ブダペスト医科大学を終え、ハンガリー南部のセゲド大学教授に就任。戦時中にスウェーデン国籍（1944-1954年）を取得し、1948年にハンガリーを離れた。

ヘヴェシ（1885-1966年）は、「化学的過程の研究において、アイソトープをトレーサーとして利用する研究」が対象業績となった。1920年にハンガリーを離れ、デンマークのニールス・ボーアと共同研究をおこなった。ヘヴェシ家は資産家で、ハンガリーを離れた後も、夏休みはハンガリーの別荘で過ごしていた。1944年までハンガリー国籍を保持、以後スウェーデン国籍。1959年にはアメリカの原子力平和賞を受賞した。

ベーケーシ（1899-1972年）は、「内耳における刺激メカニズムの生理学的解明」の業績で、ノーベル生理医学賞を受賞した。パーラーニィと同様に、耳学でノーベル賞を受賞したが、ベーケーシはこの分野のハンガリーの研究水準が高かったことをその理由の一つにあげている。経済外交官だった父の赴任のため、諸外国を回り、ベルン大学で化学を学び、ブダペスト大学で物理学の博士号を取得した。ハンガリー郵便のサービス研究所で研究生活を送った（1923-1946年）。1939年にブダペスト大学実験物理学教授に就任したが、1946年にハンガリーを離れ、1947年からハーバード大学教授、1966年からハワイ大学教授。ハワイで死去。

ウィグナー（1902-1995年）は、「対称性原理の発見と応用によって、原子核と素粒子理論に貢献」した業績で、物理学賞を受賞した。ノイマンの同級生で、1921年にハンガリーを離れ、ベルリンでポラーニィ（マイケル・ポラーニィ）の指導の下で博士号を取得。1930年にアメリカに渡り、プリンストン大学教授となり、アメリカ国籍を取得（1937年）。ウィグナーも、夏休みにはハンガリーで過ごすことが多かった。一緒にハンガリーに遊びに来たディラックはウィグナーの妹を妻に娶った。マッハッタン計画に参加し、ハンフォードの原子炉の設計にあたった。この原子炉で製造されたプルトニウムが長崎の原爆に使用された。フェルミ賞（1958年）、原子力平和賞（1960年）など、数々の賞を受賞した。1977年以降、しばしばハンガリーを訪問し、講義していた。

ガーボル（1900-1979年）は、「ホログラフィーの発見と開発」によって、物理学賞を受賞した。ブダペスト工科大学で学び、ベルリン工科大学で博士号を取得した。シーメンス社勤務（1927-1933年）の後、ハンガリーに戻り、ツングスラム社に勤めた（1933-1934年）後、英国に亡命。トムソン-ヒューストン社勤務を経て、ロンドン大学インペリアル校教授に就任（1958年）した。根っからの実験物理屋だった。ハンガリー科学アカデミーは、ガーボル・ディーネシュ賞を創設し、科学成果の実用研究・開発を顕彰している。

ポラーニィ（1929-）は、「化学反応力学における新しい研究領域の開拓に貢献」した業績で、化学賞を受賞した。20世紀を代表する知性を生んだポラーニィ家を受け継ぐ。父マイケル・ポラーニィのベルリン時代に生まれ、英国への亡命でマンチェスター大学を卒業した。1962年以降、カナダのオンタリオ大学教授。

ヴィーセル(1928-)は、「平和、相互理解、人間の尊厳へのメッセージの発信。世界の悪にたいする闘いが勝利するという強い確信を広めたこと」により、平和賞を受賞した。現ルーマニアのエルディーイのマラマロシュスイゲットに生まれ、15歳の時に一家すべてをビュッヘンヴァルドの強制収容所で失ったが、彼だけが生き残った。「ホロコースト」はヴィーセルが創った言葉である。以後、彼は文学や評論を通して、ホロコーストを糾弾する道を選んだ。レーガン大統領時に、ホロコースト大統領委員会議長を務めた。ハンガリー系ユダヤ人と自認しており、ハンガリー人というよりはユダヤ人という意識が強い。

オラー(1927-)は、「カルボカチオン(5本の手をもつ炭素化合物)化学への貢献」によって、化学賞を受賞した。ブダペスト工科大学を卒業し、そこで博士号を取得した。1956年のハンガリー動乱時に亡命し、英国、カナダを経由して、アメリカに渡った。1970年にアメリカ国籍を取得。南カリフォルニア大学ロッカー炭化水素研究所教授。現在は、頻繁にハンガリーを訪問している。

ハルシャーニ(1920-2000年)は、「非協力的ゲームの理論におけるパイオニア的な均衡分析」によって、ノーベル経済学賞を受賞した。ゲームの理論は1939年に、ノイマンが経済学者のモルゲンシュタインと共同で開発した理論で、以後、経済分析の一つの分野として確立された。ハルシャーニは数学に優れ、ギムナジウム時代の全国数学コンクールで優勝し、ギリシア古典の部でも三位に入賞している。家業は薬屋で、ブダペスト大学では薬学を専攻したが、複素関数論のフェイェール教授の授業にも出席して、数学を学んだ。もう少しで強制収容所に送られるところを抜け出し、イエズス会の寮に隠れて、終戦を迎えた。戦後、1947年に「哲学的誤りの論理構造」で博士号を取得し、ブダペスト大学助手になった。心理学で三番目の学士号を取得する直前に、ハンガリー脱出を決めた(1950年)。共産党の政権奪取で家業の薬局が没収されたためだった。オーストリアへの脱出からオーストラリアへ向かい、シドニー大学で経済学士号を取得し、さらにロックフェラー研究員の資格を得てアメリカに渡り、スタンフォード大学で二つ目の博士号(数学)を取得した。カリフォルニア大学の応用数学の講師で生活費を稼ぎ、1964年にカリフォルニア大学バークレー校の教授に就任した。当時、ハンガリーの学士号や博士号を認めなかったシドニー大学は、ノーベル賞受賞後に、ハルシャーニに名誉博士号を授与して、その不明を詫びた。

ケルティース(1929-)は、アウシュヴィッツの経験をベースにしているが、アウシュヴィッツの出来事を人間社会の例外的な事象としてではなく、社会への順応が強まる現代社会で生きていくことの意味を探求し続けたことで、文学賞を受賞した。

今年のノーベル賞では2名の日本人も受賞した。科学者の数が多く、かつ研究資金の余裕がある日本に比べ、経済的に豊かでないハンガリーでは大規模化する研究開発の先端を走る余力はない。とはいえ、まだ数名のノーベル賞候補者が存命しており、ここ10年のうちにあと1-2名の受賞者が出る可能性を残している。